

育てたい資質・能力から題材を考える

～第4学年図画工作科「ゆめのおさかなワールド」の実践から～

山口大学教育学部附属山口小学校 岡崎 典子

1 はじめに

「題材」とは子ども一人一人が表現の主題や意図などを見付け、主体的な学習活動を展開し、目標及び内容の具現化を目指す「内容や時間のまとまり」のことです。題材を考える際には、教室の子どもの姿を思い浮かべながら、どのような資質・能力を育てたいかということを踏まえて授業をデザインすることが大切なのではないかと考えます。本実践では、総合的な学習の時間と関連させた題材設定を行いました。繰り返し



材料に向き合う子ども

川に関わり「おさかなが棲む川を守りたい」という思いを抱いている子どもたちが、どのように造形的な見方・考え方を働かせながら、自分のイメージを豊かに広げていくかを述べたいと思います。

2 実践事例 ゆめのおさかなワールド (第4学年)

本題材は、液体粘土に浸した布などの材料を組み合わせることで固め、「おさかなが棲む楽しい世界」を想像して立体に表す学習です。

(1) 液体粘土でいろいろな材料を使って川を表してみよう【第1次の学び】

導入では、液体粘土にガーゼを浸して、段ボール紙の上に置いて「川の流れ」を表す演示をしました。その材料を近くで見せながら、「もっと、おさかなが棲むのに楽しくなるような川にするには、どうしたらよいか」と子どもたちに投げかけました。すると、「深さがあつた方がよい」「川の周りに他の材料で、おさかなが隠れる所をつくったらよい」「色を着けたらどうか」という意見がありました。



仲間と材料を試す子ども

そこで、液体粘土に浸した材料を使って、班で1枚の大きな段ボール紙に、どのような川を表すことができるかを試す場を設けました。すると、ほとんどの班が、ガーゼの幅をだんだん広くして上流から下流の流れを表していました。また、片面段ボールを丸めてトンネルをつくったり、麻布をチクチクさせて草を表したりし、材料の感じを生かしながら、仲間と共に試している姿が見られました。

(2) 「おさかなが棲む楽しい世界」を想像して表そう【第2次の学び】

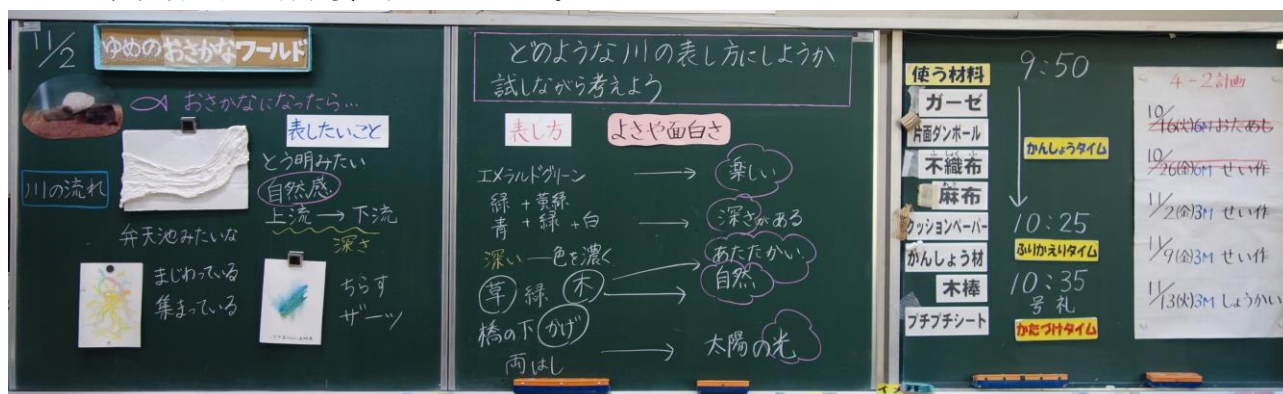
はじめに、前時に試した材料を使ってどのようなことが表わせたかを、おさかな目線になって撮った写真を見ながら交流しました。「片面段ボールのトンネルの下は隠れ家みたいで落ち着く」「クッションペーパーを使うと、川底に草が生えているようで気持ちよさそう」というように、「自分がおさかなになったら」という共通の視点を持ちながら、表し方を交流する姿が見られました。



おさかな目線で撮った写真

その後、一人一人が表したい川へのイメージをもつことができたところで、製作に取りかかりました。深さや勢いのある川をイメージしている子どもには、深さ約6cmの箱の中につくるよう

促しました。すると、箱の縁の高い所から中の低い所にガーゼを置いて、流れる水の動きを表すなど、材料に向き合う姿が見られました。



第2次第3時の板書

一週間経ち、液体粘土が固まったところで、自分の川のイメージに合う色を着けていきました。「仁保川のように、自然豊かな川にしたい」「エメラルドグリーンの透明感のある川にしたい」と具体的に川の様子や色を思い浮かべている子どもがいました。また、色をお試し用の材料に試しながら「春のように穏やかで、光があたっている川」をイメージしていく子どももいました。



子どもの作品

このように、子どもは、形や色の感じ、自分の思いや経験などを基に自分の表したい川へのイメージを広げていきました。

(3)「おさかなが棲む楽しい世界」を鑑賞しよう〔第3次の学び〕

第3次では、製作過程を、毎時間の作品の写真や班の仲間からもらった感想と共に振り返っていきながら、作品を鑑賞し合う場を設け、「表現のよくなったところ」を観点に振り返るよう促しました。

以下は、子どもの振り返りです。



途中作品の写真と仲間からの感想

Sくんの作品は、草がまわりに生えていて、本当に田舎みたいでほっとする感じがする。川の色をぬると、薄くてきれいで、「サラッ」というせせらぎの音が聞こえてくるみたいになった。

このようにして、子どもは、形や色などから仲間の思いを読み取りながら、表現のよさや面白さを感じ取ることができたのではないかと考えます。

3 おわりに

この題材をとおして、繰り返し川に関わっている子どもたちが、思いや経験を基に、形や色の感じから、一人一人が自分のイメージを豊かに広げることができたように思います。また、学級全体で、表したい川のイメージを共有することができたことも、仲間と共に学ぶよさを引き出す上で有効であったと感じました。

今後も、造形的な見方・考え方を働かせながら、子ども一人一人が主体的に表現・鑑賞活動に取り組むことができるような題材を考えていきたいと思います。